

チームオレンジ の活動について

令和7年2月13日（木）

熊本市高齢福祉課

認知症地域支援推進員 田川 愛子



国家戦略としての取り組み

「認知症施策推進大綱」

(2019年6月認知症施策推進関係閣僚会議決定)

【基本的考え方】

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人や家族の視点を重視しながら **「共生」** と「予防」を車の両輪として施策を推進。

【5つの柱】

- 1 普及啓発・本人発信支援
- 2 予防
- 3 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
- 4 **認知症バリアフリーの推進**・若年性認知症の人への支援・社会参加支援
- 5 研究開発・産業促進・国際展開

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」

(2024年1月施行)

認知症の人を含めた国民一人ひとりが個性と能力を十分に発揮し、お互いに尊重して支えつつ **「共生社会」** を実現することを目的としている。

認知症サポーターキャラバン（認知症の啓発事業）の流れ

認知症を正しく理解し偏見を持たず、認知症の人や家族を温かく見守る応援者を増やす

→認知症サポーターの養成



知る・学ぶ

温かく見守るスタッフから一歩進んで、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりに向けての地域の取り組みに積極的に関わる →地域における見守り活動等

活動する

地域での活動を手本に、サポーター1人ひとりの力を結集しチームを組んで、認知症の人とその家族、地域・多職種の職域サポーターの近隣チームによる早期からの継続支援の活動を目指す →チームオレンジ

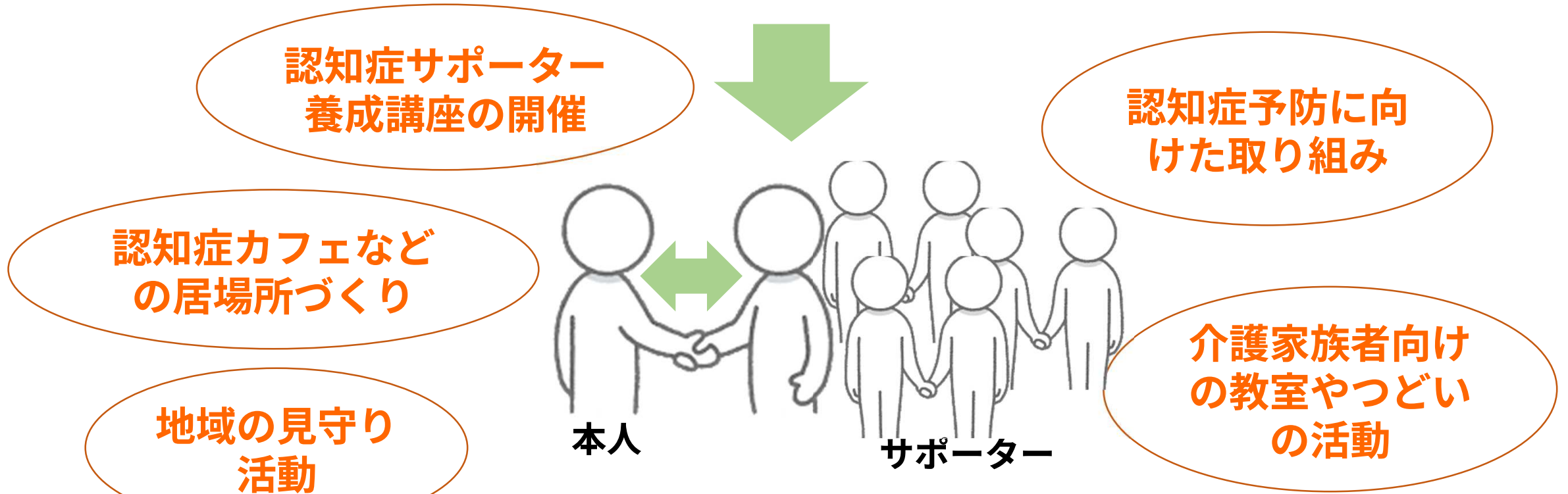
共に活動する



（令和元年から開始）

チームオレンジの活動とは

「認知症の人・家族の希望や悩み、身近な困りごとなど」と
「認知症サポーターを中心とした支援者」をつなぐ仕組みづくり



認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりの具体的な活動を
本人と一緒に進めていく

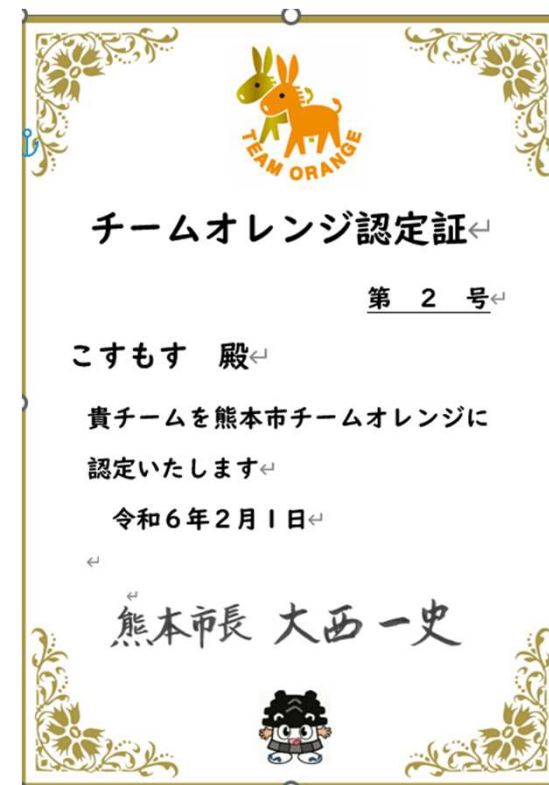
※ 令和4年度には、47都道府県339市町村にて、**1059チームが設置**



熊本市では、R5年度より実施を進めている

【熊本市の認定状況】

第1号	東区	長嶺校区見守りネットワーク	R5年12月
第2号	中央区	こすもす	R6年2月
第3号	南区	しまの家	R6年3月
第4号	南区	えがおの○	R6年7月
第5号	西区	高橋健康クラブ	R6年8月



※今年度中に北区で立ち上がる予定。郵便局や銀行も参加予定。

【～R5年度】

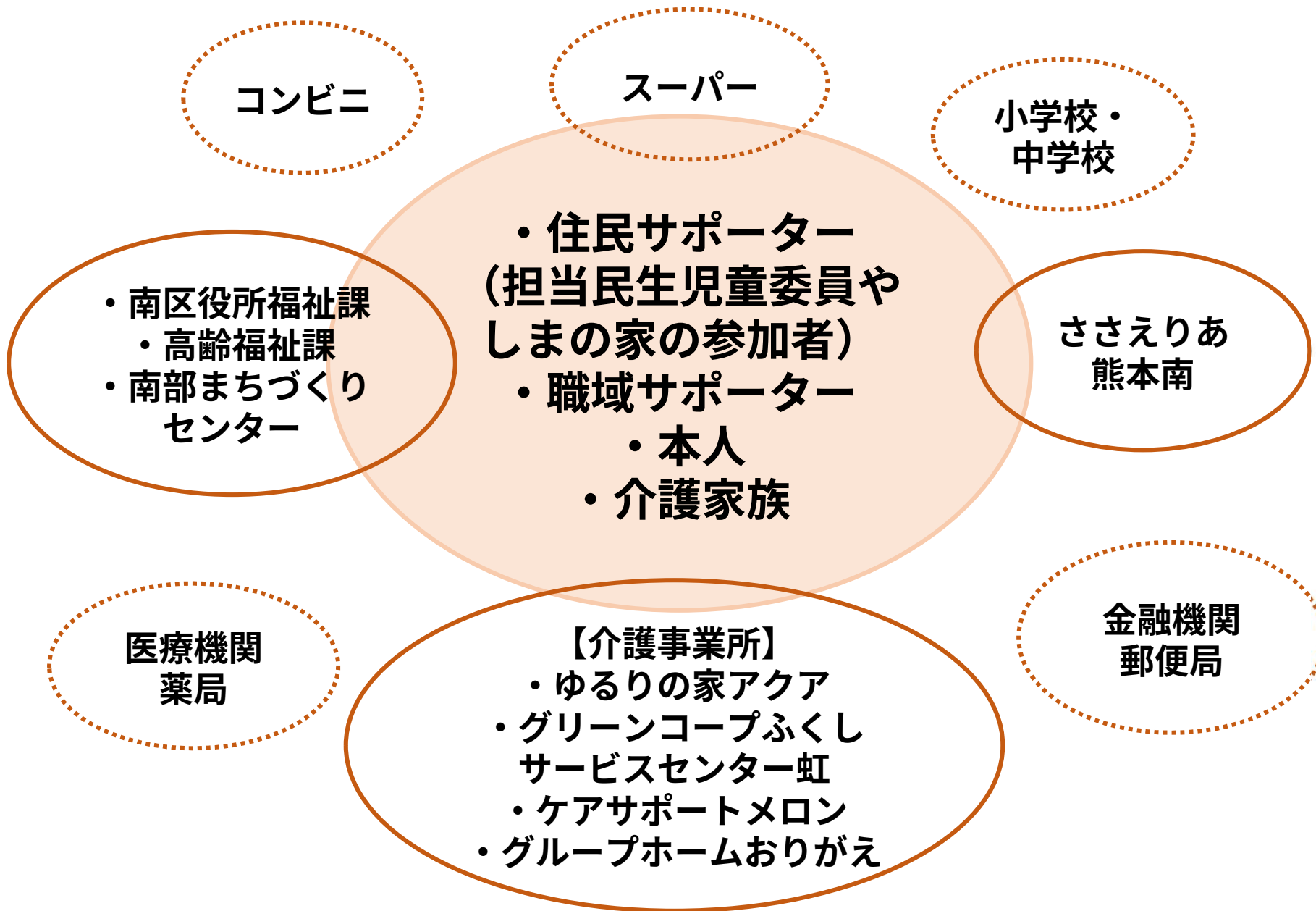
- 活動当初は、『徘徊者搜索声掛け模擬訓練』『地域での見守り活動』『会食支援』『配食支援』を町内ごとに行っていたが、コロナ禍で活動休止（地域の見守り活動のみ継続）。
- 見守りネットワークの活動を途絶えさせないよう、チームオレンジの認定を受け、活動を活性化させたいという思いから認定を受けることとなった。
- 個人の情報把握よりも、まずは活動に必要な知識（地域の現状把握も含めて）を習得し、活動自体の普及啓発を行っていくことが先決との考えがまとまり、勉強会を計画・実施。

月	10月	11月	12月
テーマ	歩み・現状を 知る	社会資源を 学ぶ	今後の活動について 考える
内容	・熊本市（長嶺校区）の認知症に関する現状や取り組みについて ・長嶺校区見守りネットワークのこれまでの活動のあゆみについて	・認知症に関する相談先や社会資源について ・熊本市のSOSネットワーク事業について	・R5年度の活動の振り返り ・R6年度の活動について

【R6年度】

- 実行委員会のメンバーを組織化し、校区のスローガン「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を目指して、活動目的・活動内容・活動計画を明確化。
- 「いきいき市民福祉基金助成事業」の申請を行い、補助金を活用
- R7年2月に声かけ訓練を計画

しまの家の活動について



『しまの家』の活動を通して

認知症になっても
安心して暮らせる
力合西校区



『しまの家』では、毎週月曜日（10：30～11：30）に、テーマごとの勉強会（情報提供）を行い、終了後は参加者同士の交流を図っている。

その中でチームオレンジとしての活動内容と活動の意義は・・・

- ① 認知症に関する勉強会
⇒認知症の**理解を深める**
- ② 勉強会後の住民同士の交流の中で地域の現状について情報交換を行う
⇒関係者に情報が伝わる事で**適切なタイミングで支援につなげられる**
- ③ 認知症の人やその家族がしまの家の活動に参加し**居場所**としても活用

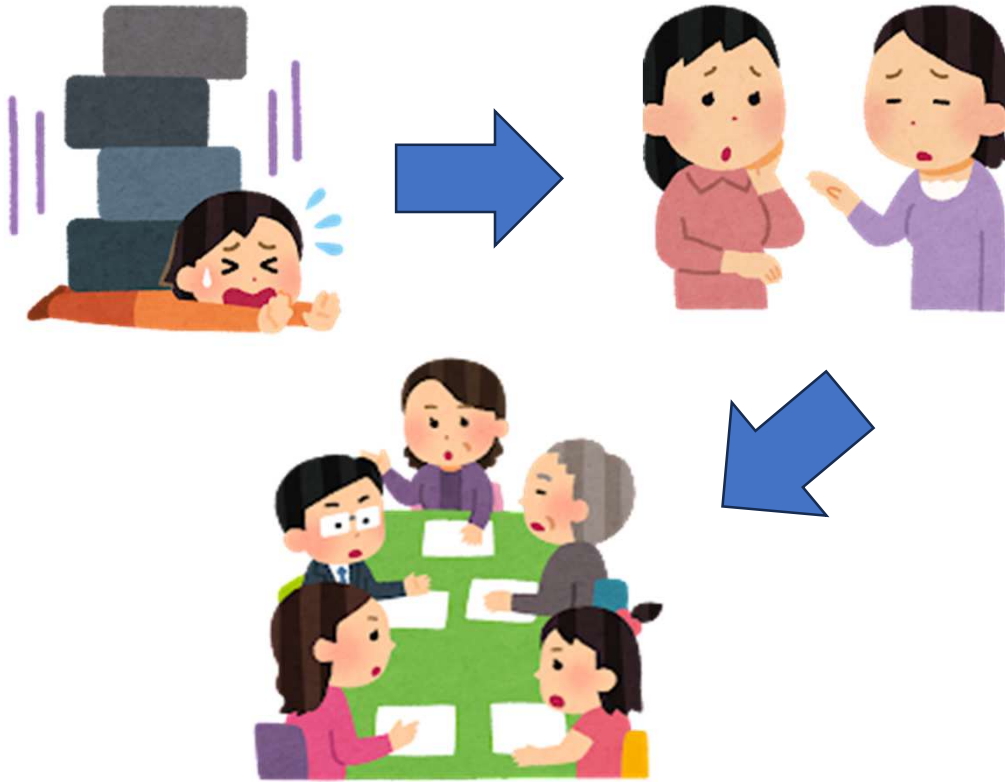
	テーマ	講師
1	熊本市のSOSネットワーク事業について	高齢福祉課
2	グループホームについて	グループホームおりがえ 小山氏
3	長寿の秘訣	ケアサポートメロン 元田氏
4	認知症の予防とコグニサイズ	高齢福祉課



キッズサポーター
向けのマスコット
作成にも協力

チームオレンジの活動が個別ケースの対応につながった事例

【例1】

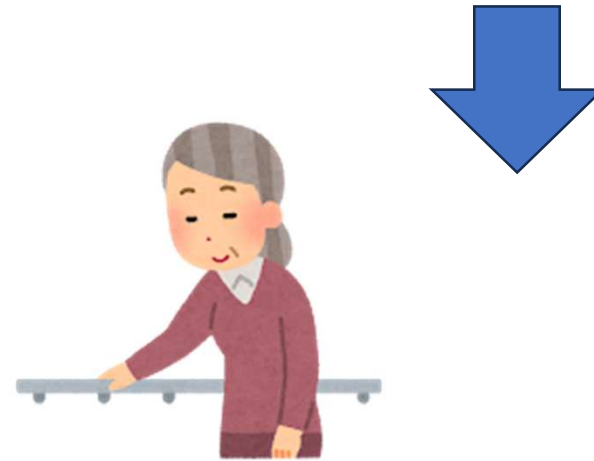


『しまの家』の活動が・・・

- ① 情報共有の場になった
- ② 本人を知る場になった
- ③ 本人のつどいの場になった
- ④ 本人が直接相談できる場になった

【例2】

- ・ 毎月第2水曜日（19：30～21時）に集まって勉強会や地域の中で気になっていることについて話し合っている
- ・ 一人のために動ける自分を目指す
- ・ メンバーは一般住民



『笑顔の○』の活動が・・・

- ① 情報共有の場になった
- ② 本人が相談しやすい場になった
- ③ メンバー自身が活動（活躍）できる場になった
- ④ 地域が認知症について考える場になった

チームオレンジの課題について



チームオレンジに対しての理解を深める（地域内、関係者間など）

⇒チームの認知度が上がると、活動の幅が広がる

⇒仲間が増える



本人の声を取り入れていく方法の検討

⇒本人の声が地域づくりに活かされる

⇒本人が集える場や相談できる場が増える

北区の事例を参考に、
企業として参加して
もらえるよう今後も積極
的に働きかけていく。



生活関連企業への働きかけを行う

⇒企業自体の認知症に対する理解が深まる

⇒多世代が認知症に対して興味をもつようになる

⇒認知症があっても安心して暮らせるまちづくりにつながる